

# イキイキ、私らしく

## —あき子さんの場合—

### CAST

ナレーター	<	山本 けい子	二の宮母親クラブ	>
あき子	<	宮田 幸子	谷田部母親クラブ	>
夫	<	東泉	つくば市子ども課職員	>
さくら	<	谷川原桃子	二の宮母親クラブ員の子	>
先輩ママ	<	浦里 晴美	並木母親クラブ	>
はる子	<	川浦 久与	東母親クラブ	>
A子	<	伊藤由美子	大塚児童館母親クラブ	>
周りの人	<	川田 麻美	谷田部母親クラブ	>

### CAST

照明	<	細田	>	<	浦里	>
携帯電話音声	<	佐伯	>			

\*シナリオ下段のS：スポットライト

① シーン

(二人とも、まくし立てる感じで)

あき子 ねえ、パパ、子供たちを連れて公園へでも行ってきてってばーリビングの掃除もしたいし、子供の部屋もかたづけたいのよ。みんなでゴロゴロしてるから何もできないじゃない。

夫 何でわざわざ休みの日にやるんだよ。普段の、誰もいないときやっつけよ！

あき子 だからーっ！今週は母親クラブの仕事で忙しかったんだってばー来月は総会があるの！

夫 お前さあ…サクラが幼稚園に入ったら、家をきれいにするって言ってたよな…なのに、役員、役員つてやたら引き受けて、一体何やってんだ！家の事もきちんとできないなら、母親クラブなんてやめちやえよ！！

ナレーター おやおや、穏やかではありませんね。これは、あるごく普通の家庭の、ごく普通の休日の朝の風景です。

あき子さんは、三人の子供のお母さん。母親クラブで役員をしています。夫は子煩悩な、家庭第一主義のお父さんです。では、なぜこんなことになったのでしょうか…。

話はさかのぼって、あき子さんが母親クラブに入った頃のお話から見ましょう。あき子さんが近所の先輩ママと話をしているようです。

② シーン

あき子 子供たちにも、そろそろ友達が欲しいんですよ。私もいろいろ話せるママ友達が欲しいし。

先輩ママ あらー、じゃあ母親クラブの幼児サークルに入れば？親も子もお友達がたくさんできて、すごくいいわよ。近くの児童館で活動してるから、一緒に行こうよ。

ナレーター こうして、あき子さんは週に一回の母親クラブの活動に親子で参加することがとても楽しみになりました。そこから、おかあさん同士のお付き合いも始まり、買い物や病院、幼稚園や学校、お稽古ことなどの情報もたくさん得ることができ、あき子さんはとても満足でした。

(少しの間)

【幕が開く】

S…あき子・夫

暗転

S…ナレーター

暗転

S…あき子・先輩ママ

S…ナレーター

暗転

ナレーター　そして、それから二年ほどたちました。

先輩ママ　さあ皆さん。今日は来年度の役員を決めていきます、誰か引き受けてもらえませんか？

(周りを見渡しながらしの聞)

あらー、誰もいらつしやらないですか？私は小学校の本部役員受けちゃったんですよ……。  
はる子さん、どうですか？

(このあたりからテンが良く)

はる子　私、幼稚園の会長になっちゃったんで、無理です。

先輩ママ　そうですか……。うーん。どうしましょうか……。じゃあ、くじびきで決めましょう！

(あき子、くじを引く動作)

あき子　げげっ！？信じられなーい！

先輩ママ　はい、では来年の会長はあき子さんに決まりました。みなさん拍手。

(周りの人、拍手する)

ナレーター　さらに！次の年になると、県の根津会長から……

根津さん　あらーあき子さん！一番下のさくらちゃん、幼稚園に入られるのね、おめでと。

実は、今年は県の役員改選があるんです。お願い……できますよね！

あき子　あ、は、はい……。

ナレーター　こんな具合に、あき子さんはだんだんと役員として忙しい日々を送るようになっていったのです。さて、ではさっきの夫婦げんか、どうなっていくのでしょうか。続きをみてみましょう。

S：ナレーター

S：あき子・先輩ママ・はる子

S：ナレーター・根津さん・あき子

暗転

S：ナレーター

暗転

(さっきより落ち着いた感じで)

あき子

あのね。パパ、家をキレイにしたかったのはホントだよ。役員だって、自分から進んで引き受けた訳じゃないよ。子供のために専業主婦になったのも、自分で決めたことだし。だって、子供のころお母さんが仕事で家にいなくてさびしかったからね。

夫

じゃあ、何もボランティアなんかで出歩かなくても、家にいればいいじゃないのか。

あき子

(しみじみと……)

でもね。家にだけいると、一生懸命いろいろやつても誰も認めてくれないみたいで……。評価もないし、お給料もないし。ひたすら霧の中を走ってるみたいだったんだよね。なんだか自分だけ取り残されちゃった様な気がして。

夫

じゃあ、母親クラブはそうじゃないってことなのか？

あき子

そう……役員になってからはね、自分が必要とされたり、自分の仕事がかたちになったりして今はすごくやりがいを感じるの。やっと霧から出られた気分なんだ！ お友達もできたし。

夫

ふーん……。最近忙しい、忙いって言いながらも、何かイキイキしてるとは思ってたんだよ。そんなもんかねえ……。

(気を取り直した感じで)

おーいお前ら！公園行くぞ、支度しろく！

(周りの人) わーい！

ナレーター

どうやら、あき子さんは自分の時間を持つことができたようです。そして夫婦はお互いに自分の気持ちもすこしずつ伝えることができたようです。何をするにも、家族に理解してもらえろというこはとでも重要です。

さて、この後しばらくして、あき子さん一家にはちょっとした事件が起こりました。

S…あき子・夫

暗転

S…ナレーター

暗転

(焦った様子で)

夫 おーい！サクラかえってないか！？

あき子 帰ってないよー。何で？一緒に公園に行ったんじゃないの？

夫 オ、オレだつてちゃんと見てたんだよ！だけど、なんだか分かんないけど、いなくなっちゃったんだ！

あき子 えーっ！？とにかく探さなくちゃ！！

夫・あき子 サクラー！サークーラーちゃん！(何回か叫びながら探す仕草)

あき子 あたしちよつとみんなに電話する！(電話をかける仕草)

夫 え！？あー……。そのままオロオロと探す仕草)

あき子 もしもし？はる子さん？？ サクラ見なかった？いなくなっちゃったの。

はる子 えーっ？わかった、他のみんなにも聞いてみる！(電話をかける仕草)

あき子 パパ、今母親クラブのみんなも探してくれるから！

夫 お、おうー……。

(周りの人・携帯を持って、サクラを呼びながら会場を探し回る)

(しばらくして、子供を抱き上げながら)

A子 あ、いたっ！あき子さん、サクラちゃんみつかったよ！

(A子・周りの人、あき子に駆け寄る)

S…あき子・夫

(携帯の音)

S…あき子・夫・はる子

(携帯の音)

S…A子(会場後ろ)

⑤ シーン

あき子 よかったあ、みんなありがとう。  
(周りの人) 良かったねー！

(ひとりのように)  
夫 母親クラブのつながりってすごいんだなあ。

ナレーター 仲間。そう、子育て支援に欠かせない大切なものですね。あき子さんは夫の理解だけでなく、仲間の協力も得ることができました。そして、夫もまた、あき子さんを通してつながりの大切さを実感したようですね。

(少しの間)  
さあ、またあき子さんにいつもの朝がやってきました。

あき子 (イライラした感じで)  
やだー寝坊したーっ！タクちゃん起きてーっ、リサちゃん顔洗ってーっ。あー、もうサクラちゃんは起きなくていいのにーっ！ タクー、学校の用意はできてるの??

夫 おーい、忙しいからって子供にあたるなよー！

あき子 あーもうー！！ パパものんびりしてないで、サクラちゃん何とかしてよー！！

夫 おいおい、今度はオレかよー！！

ナレーター 日々の暮らしの中で、見えなくなった自分を見つけたかった。自分を見つけるには、家族の絆、そして同じように自分を見つけようとしている仲間が必要でした。  
あくせく、あくせく、ただせわしなく単調に過ぎていく毎日。かけがえのない家族を発見し、自分らしさを発見するために、ちょっとだけ立ち止まって、舞台の会話に耳を傾けてみませんか？

暗転  
S…ナレーター

暗転

S…あき子・夫

暗転

S…ナレーター

【幕を閉じる】